

山の国・飛騨に育まれた 木工の技を巧みに生かして

地元の森の広葉樹の魅力をやさしく伝える自然の表情

豊かな森林に恵まれた山国・飛騨。この地に太古の昔より培われてきた木工技術を持つ匠たちは奈良時代より都で重用され、寺社をはじめとする数々の建造物を手がけるに至った歴史はあまりにも有名です。やがて「飛騨の匠」は名工の美称となり、今もその技や心は家具づくりをはじめ、さまざまな形でしつかりと根付いています。この飛騨の地で生まれ育った北川啓市さんは、木工作家として独立して20年以上。熟練の技に加え、お人柄を感じさせるぬくもりのあるプロダクトが人々の心をとらえています。

ありのままの 木の表情を個性に

北川啓市さんが企画から製造販売まで手がける北々工房に揃うのは、ダイニングセットやデスクなどの大物家具から、時計、食器などのクラフトまで、実にバラエティに富んだ木工作品。伝わってくるのは、ひとつひとつに木の生命が宿っているような親しみと存在感。眺めているだけでも、ほっとするようなぬくもりに包まれる気がします。それは、北川さんが生まれてからずっと飛騨の木々に

囲まれて暮らしてこられたことも影響しているのかもしれない。幼い頃からものづくりが好きだったという北川さんが素材として無意識に選んだのが木。やがて家具メーカーに入社し設計やデザインを手がける一方で、プライベートで創作したクラフト作品で数々の賞を受賞するまでに、少しずつ工房の環境を整え、満を持して独立してから、すでに四半世紀が経ちました。

木と長くつきあう中で到達したひとつの表現方法は、木のありのままの表情を生かすことでした。「木目はも



飛騨のクラフト 北川啓市氏 Keiichi Kitagawa

1967年岐阜県河合村に生まれる。岐阜県立高山工業高等学校インテリア科卒業後、地元飛騨の木工会社へ入社。技術課を経て企画デザインを手がける。96年より「北々工房」として木工作家としての活動も開始。数々の木工デザイン展で入賞を果たす。99年に13年間勤めた会社を退職、独立。2016年、高山市に「kita kita shop」を開店。個展、グループ展、百貨店等の家具展への出展多数。

ちろん、節や割れのある部分まで、それぞれの木が持っている特徴を排除せずに使用することで、唯一無二の個性が生まれます」。ひとつひとつの作品にこめられた、北川さんならではのこだわり。もちろん強度や使い心地へも配慮し、長く愛用するほどに深まる味わいが楽しめます。

地元の広葉樹を活用し 森を守る

飛騨市は、森林率が94%を占めるといふまさに森の国。さらにその7割近くは、広葉樹です。広葉樹は堅く耐久性が高いため、日常使いに適しています。しかも樹種が豊富で、多種多様な美しさがあります。しかし従来の流通ルートでは家具向きの木は伐採し木材に加工されたらすぐに全国へ。多く



飛騨家具はもともと「足元の産地」といわれ、椅子やテーブルづくりが盛んなことで知られます。こちらは樺と楡の木を使用したロッキングチェア。日本人仕様の低めで格別の座り心地。「ロッキングチェアは重心が肝になるので、図面だけで座り心地を調整することはできません。職人の勘が要求されるんですよ」と北川さん。



数種類の広葉樹を組み合わせ、その持ち味を巧みに生かした時計。同じものはふたつとできないオリジナリティが、価値と愛着を高めます。

て生まれました。地元の木をより多くの人に知ってもらうことで需要を高めることは、林業の活性化にもつながります。

**作品との出会いから
広がる世界を**

を占める細い木さえ、チップとなって市外に流れ、地元で手に入れ活用するとは困難でした。「幸い私の場合、近所の山から伐採された木が集積所に運ばれるルート上に住んでいたのので（笑）、交渉して市場に出回る前の原木を卸していただくことに成功しました。そうすることで本来製品にならなかったような面白い素材を入手することも可能になりました」と北川さん。個性あふれる広葉樹を巧みに組み合わせさせた独創的なプロダクトも、こうし

現在は立ち寄りやすい高山市内に店舗を営むほか、飛騨の工房ではスツールづくりなどのワークショップも行っています。「自ら木にふれることで、より興味を深めていただけたらと思っています。商品を買ってくださった他府県の方がご参加くださることも多いんですよ」と北川さんは微笑みます。その穏やかな表情の奥に、妥協のないものづくりへの思いと、自らの作品や活動を通じて日本の森林を守っていきたいという真摯



レザークラフト作家、イラストレーターとしても活躍するお嬢さんの侃奈さんのデザインによるドレッサー。シンプルなフォルムに、山桜のやわらかな表情が和らぎを添えます。

な願いがのぞきます。大量生産・大量消費の時代に失われてきたものを、今あらためて見つめ直す。愛情を込めてつくられ、空間に静かに息づく木工作品たちは、それを手にする人の心にも豊かな思いを広げてくれるようです。

北々工房のプロダクトは、木の切断面にわずかに丸みをもたせているのもこだわりのひとつ。小さな工夫ながら、印象が格段にやわらかくなります。



くるみの木を彫り出した器。磨きこまれた木目がうっとりするような美しさ。直径約30cmというビッグサイズの深型は、それだけで存在感があります。このボリュームのものを削り出すには、倍以上の木の塊が必要になります。加工前の原木が仕入れられる北々工房ならではの製品です。